

【研究テーマ】

□ 登呂遺跡を舞台とした持続的農耕文化の復元とその活用の研究

キーワード：登呂遺跡、実験考古学、文化遺産、活用、松菊里遺跡、遺跡連携

登呂農耕文化研究所

◆登呂遺跡は、国の特別史跡に指定された弥生時代の農耕集落の遺跡です。村は約2000年前に作られ、100年以上にわたって持続して10万㎡を超える水田を営み、洪水によって集落が埋没した後も水田を復興させ経営を続けたことがわかっています。歴史的にも著名な登呂遺跡ですが、平成の再発掘調査に基づき現在は史跡公園として村の姿や水田も発掘された位置と同じ規模形状で再現整備されています。



復元された登呂遺跡の集落と水田



弥生時代の水田を再現しての栽培実験

◆登呂農耕文化研究所は、登呂遺跡の現地で再現された史跡環境を活用して、学際的な研究を進めています。復元水田で、考古学的に復元した当時の道具と技術を用いて栽培実験を行い、その過程と結果を考古学や歴史学、農学、作物学、土壌学、環境科学などの自然科学の手法を用いて正しく評価することを実践します。



実験水田の土壌調査の様子

◆その成果は、考古学的・歴史的に弥生時代社会の実態を解明するだけでなく、農学研究にも投射可能と考えられ、陸の豊かさを守る目標につながります。現在、「アジアの中の登呂遺跡」をテーマとして連携を進める中で、韓国を代表する初期農耕文化の遺跡である松菊里遺跡との国際遺跡間交流を進めています。

プロジェクトの概要

社会連携へ向けたアピールポイント

- ・ 登呂農耕文化研究所は、2022年(令和4年)10月に静岡大学プロジェクト研究所として設立されました。この研究所は、静岡大学サステナビリティセンター令和3年度および4年度のSDGsに関する共同研究助成(研究タイトル「登呂遺跡を舞台とした持続的農耕文化の復元とその活用の研究」)として採択された共同研究プロジェクトを母体としています。
- ・ 静岡市登呂博物館との連携のもと特別史跡として整備された水田や周辺環境で栽培実験や諸課題の検討を行っています。学術的成果だけではなく、博物館コンテンツの価値向上、参加・体験型のプログラム立案など、より高度の史跡の活用や生涯学習機会の創出を目指しています。
- ・ 全国に展開する弥生・古墳時代の農耕関連遺跡の史跡公園と連携して栽培実験の比較研究を進めるプロジェクトも進行中(<https://sites.google.com/view/suidenproject/>)で、本研究プロジェクトもそこで主要な役割を果たしています。
- ・ 関連科研費：基盤研究(B) 令和2～6年度「日本列島農耕開始・定着期における農耕文化複合の比較考古学的研究」(代表者：篠原和太)

プロジェクトリーダー



篠原 和太

学術院人文社会科学領域
人間・社会系列
教授

プロジェクトメンバー

- ・ 貴田 潔(人文社会科学部)・稲垣栄洋(農学部)・西川浩二(農学部)・木寄暁子(理学部)・山本隆太(地域創造教育センター)・宮澤俊義(キャンパスミュージアム)・山本千尋(キャンパスミュージアム)
- ・ 松田順一郎(関西大学)・山田昌久(東京都立大学)・白石哲也(山形大学)
- ・ 梶山裕倫(静岡市登呂博物館・学芸員)・小泉祐紀(静岡市文化財課)

相談に応じられる関連分野

- ・ 登呂遺跡での稲作体験と関連した諸活動
- ・ 全国の史跡公園・博物館相互の連携
- ・ 遺跡・地域遺産の保護・活用

